

あすなろ通信 28号

編集 NPO法人みよし子育て・学び支援あすなろ

事務局：〒728-0006 三次市島敷町3番7

TEL0824-55-6301 Fax55-6302 発行日 2016年6月1日

道は必ず

どこかに続く

日野原 重明

あすなろ生のみなさん ようこそ！

NPO法人みよし子育て・学び支援あすなろ理事長

黒田 明憲



一期一会

みなさんあすなろ
ようこそ！

みなさんの数学・

英語の指導をされる

影山先生、守本先生

と出会えたことを喜んでください。あすなろだけの出会いに終わらず、高校 専門学校 大学に行っても、社会人になっても、相談出来るような太い心の絆をつくってください。私は現在八十二歳。でも夢があります。それは、勉強で困っている生徒や学校・家庭のことで悩んでいる生徒が、**やればできる**と自分に自信を持つてくれる **あすなろ**にしたいです。

みなさんを指導される二人の先生は、あすなろの趣旨に共鳴され、自分の生きがいにしたいたいという気持ちで来られました。当初、週二日勤務ということでお願いしたのですが、やる以上は、しっかり教えたいと、週三日の授業を提案してくださいました。勤務時間も夕方からだったのですが、早く来られて教材を準備されています。先生の情熱に負けないよう、みなさんもがんばってください。人生は一期一会です。

みなさんに笑顔のプレゼントを

元気教室（居場所）は昨年引き続き四車先生が担当されます。先生もみなさんとの出会いを生きがいになっています。この教室は小学生から高校

生まで来ていますが、みんな四車先生が大好きで来ている教室です。勉強は一人一人に合ったカリキュラムですから大変ですが、大学生・卒塾した高校生が指導スタッフに加わってくれています。今年のみなさんに**笑顔**を！と **あすなろサタデー・レ・ミ**の時間を設けられました。閑家水濱（せきやみぎわ）さんがボランティアで指導してくださっています。私も土曜日に**フリー教室**をひらいて大学生といっしょに、理科・社会を教えることにしました。塾生は無料。来てください。

里山学びネットワーク

農林業の衰退―廃校―限界集落という中国山地の歴史に目を向け続けた中国新聞が、現在、ルポ **中国山地**を掲載されています。先日北広島町を例に**若者の田園回帰、移住者の増加**の記事が出ました。移住者の多くは子育て世代とのこと。この子どもたちが地域で育つてくれればと思います。

あすなろは「所得と学力格差」の問題から出発しました。今年は「地域と学力格差」に目を向け、蓮光寺（作木）西覚寺（十日市）総領自治振興区（庄原市）の自治連合組織と里山学びネットワークを組みました。各担当者のレポートを三〜五ページに掲載しました。ぜひ読んでください。

自分の新記録得点に挑戦！

中間・期末テストQ&A

Q 小学校と中学校のテスト勉強の違いを教えてください！

A 小学校では単元別のテストなので範囲がせまいのですが、中学校は範囲の広い中間テストと期末テストが実施されますから、早くからしっかりと準備をして受ける必要があります。

Q 中間・期末テストの勉強のコツを教えてください！

A 試験範囲は十日から一週間前には発表されます。家での勉強計画表をつくって確実に点をとってください。テスト勉強の基本は「自分でやる」ですが、得点に結びつく勉強法を塾の「テスト対策」などで身につけてください。

Q なぜ、中間・期末テストにこだわらなければいけないのですか！

A 大事な質問です。理由は通知表の成績に大きく影響するからです。中学校の成績は高校受験の時に、内申点として高校に提出され合格不合格の判定に使われます。

Q テスト以外で「これだけ」ということは！

A 絶対に守ってほしいことは「提出物をきちんと出す」こと。先生の「信頼」を得ることは大切なことです。

やればできるを

テストで実感しよう！

今、なぜ寺子屋の教育が注目を集めるのでしょうか？

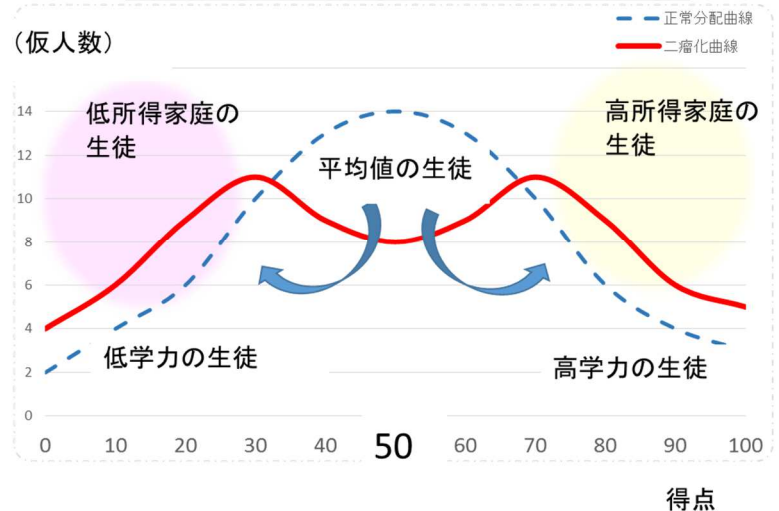
ひろがる学力格差

所得と学力格差の問題は単に学校教育の問題だけでなく社会問題として取り上げられています。

現在の学力格差の状況をラクダの背をイメージして「二瘤化」とよばれています。かつて正常分布曲線で大多数を占めていた「普通」の学力だった生徒たちが、現在では学年が上がるにつれて図のように分かれていっているのです。

低所得家庭⇒低学力 高所得家庭⇒高学力
「江戸の学び」の著者市川寛明氏は「寺子屋教育の見直しは、学校教育の画一性や落ちこぼれ問題への強い関心の裏返しである」と述べています。学習塾や予備校も「一斉」から「個別」の指導カリキュラムにきりかえています。

所得と学力格差 模式図



影山英男・江澤正思著「学力は1年で伸びる」と寺子屋思想

本書は山陽小野田市教育長江澤正思による実践記録書です。江澤教育長は学力向上の土台に「脳と心」「心と体」の二点を挙げていますが、紙面の都合で「脳と心」の概念図の一部を紹介します。江澤教育長は「**学びの基本要素は機能的には繰り返し**」であると考え、寺子屋の**読み・書き・計算**の反復練習で集中力（脳の活性化）をつける取り組みを行いました。

具体的には影山英男氏の協力を得て、百ます計算や寺子屋で行われた「素読」の手法を参考に、**丸ごと体にしみこませる「音読」**などを取り入れました。

概念図に**寺子屋精神**という言葉がありますが、江澤教育長は特に先生と生徒の関係―**師弟関係の正常化**―を学びの重要な要素として取り入れました。



寺子屋教育あれこれ

前掲の『日本庶民教育史』によると、学習は「読み（読書）、書き（習字）」が主であったが、商業の発達に伴って「そろばん」が加えられていったようです。ひとりひとりの能力に応じて与えられた「教科書（手習い本）」を終えると「清書」「浚い」があり文字・漢字テストが行われていました。

面白いのは「数習い」です。線香が燃え尽きる間に懸命に計算や文字を書かせ、練習量や集中力を競わせるというようなことも行われていたそうです。



寺子屋図（渡辺崋山画）師匠の表情とは対照的な子供たちに注目してほしい。

絵は寺子屋で勉強をした子どもたちの様子を描いたものです。一生懸命に手習いをしているかと思えば、そのかわらではおしゃべりやあくびをする子もいて意外です。日本庶民教育史」の著者乙竹岩蔵氏は個別指導を基本

とした寺子屋式教育手法を高く評価しています。

寺子屋では子どもたちに主体的に学ばせる「学習観」があったと解説しています。いつの時代でも育ち盛りの子どもの多くは勉強が苦手です。渡辺崋山の絵から、今も変わらない子どもの姿が見られます。江戸時代の川柳に次のような句がありました。

行きは牛 帰りは馬の 手習子

手習子 腹が痛い と 母に言い



西覚寺プレゼンツこども寺子屋塾

副住職 伊川 大慶

in 2016 夏



十日市にある西覚寺の伊川大慶と申します。普段は西覚寺副住職、また、浄土真宗本願寺派布教使として活動しております。お寺業界にとっても今一番に危惧されているのは過疎化です。三次の人口も10年前は6万名以上でしたが、平成28年3月で54531名とデータがでております。10年で約5千名、人口が減ったわけです。

お寺や塾はそれぞれは小さな力かもしれませんが、互いに手を合わせ、三次を好きになってくれる子どもを育て、活気ある、動いているまちづくりに貢献できれば嬉しい事だと思っております。

私のお寺では、月1回土曜日に土曜学校といってお経を読んだり、法話を聴いたり、ゲームをしたり、おやつを食べたりする子ども会を開催しています。

夏休みはサマースクールといってお寺に泊まってもらいイベントも行っております。また、地域の子どもたちに勉強を教えることも始めております。子どもたちは違う世代、違う学校の子どもたちですが、普段顔を合わせない子たちが触れ合う事で、様々なものを吸収してくれていると感じています。

一昨年、昨年と開催しましたアドベンチャー馬洗川は、あすなろや、漁業組合、鵜匠会の皆さんとの協



西覚寺プレゼンツ こども寺子屋塾 in2016 夏

わからなかったことを聞いて2学期にそなえよう

○日程 2016年8月18日(木) 8:00~11:30
2016年8月19日(金) 8:00~11:30

8:00 ~ 8:15 はじまりの会(読経・法話等)

8:15 ~ 11:00 勉強

11:00 ~ 11:30 おわりの会(掃除・レク・お菓子)

※分からない事があっても大丈夫。先生が常駐。

○持参物 学校や塾の宿題(どの教科でも大丈夫です)
筆記用具・その他勉強に必要なもの。

○参加費 100円/1日

○場所 本堂 三次市十日市中3-10-17 駐車場有

○お申込 西覚寺までお電話、FAX、メールにて。
(名前、学校、学年、住所、電話番号をお知らせ下さい)

※小学生10名、中学生10名までとさせていただきます。

西覚寺連絡先 TEL 0824-62-3325 FAX 62-8160

Mail daikeikouh0@gmail.com



力で行なわれた行事でした。身近な川ではありますが、普段入って泳ぐ事なんてありませんので、子どもたちは大喜びでした。イカダや、水鉄砲、網漁の体験や、魚の素にぎりなど、テレビやゲームとは違い、肌で直接、三次の自然と触れ合い、おいしいアユも頂きました。

塾と地域のお寺や、学校、団体がつながりを持つ事によって大きな力になるんだと実感した事でもあります。今後もお寺で様々な行事をする際、あすなろの生徒に参加してもらったり、逆にあすなろの行事にお寺の子ども会が参加させてもらったりしながら、地域の子どもたちの居場所が増えていけばいいなと願っています。

そこで本年度よりNPO法人あすなろの協力を

頂き、西覚寺本堂にて夏期講習、冬期講習を開催する運びとなりました。夏は八月十八日(木)、十九日(金)の八時から十一時半までです。夏期講習といましても学校の宿題を進めてもらいます。

お寺は風の通りがよく、夏でも涼しく感じる日もあります。普段とは違った雰囲気、そして仲間と共に勉強する事によって自宅学習に比べ、より集中する事ができるのではないかと考えております。

私自身、夏休みの宿題をいつもギリギリでやって、結局中途半端にしかできなかった記憶があります。是非この機会に夏休みの宿題を終わらせて、夏休み後半も思いっきり楽しんでもらいたいと思います。左記の詳細で行います。是非、皆様のご縁のある子どもたちにご案内いただければ幸いです。

升田幸三(名人・王将・九段)

1918(大正7)年、三次市三良坂町で生まれる。棋士(将棋)になることを反対する母の物差しに「名人に香車を引いて勝つ」と書き残し14歳で家出。大阪で木見金治郎九段の門下生になる。1956(昭和31)年、大山康晴名人に「香車を引いて勝つ」という空前絶後の記録を残し、翌年には名人・王将の三冠王になる。1979(昭和48)年紫綬褒章を受章。1991年心不全のため逝去。没後、独創的な新手の考案者に「升田幸三賞」が創作された。



三良坂町出身の将棋の升田幸三名人は日本の将棋界で坂田三吉と共に多くの人も知られ愛され語りつがれている棋士です。
みなさんに紹介したいと思ったのは、人形師辻村寿三郎と同じ様に、苦しい環境のなかで育ちながら夢の実現に生涯をかけた人だからです。
自分が夢を叶えることが出来たのは、
負けず嫌いで自分を信じつづけたこと
物事に集中したこと
集中力を持続させるために勉強したこと
だと話しておられます。

升田幸三名人の少年時代

両親は将棋や囲碁とは無縁でしたが、兄の静夫は将棋では近在では無敵の実力者でした。母に知られてはいけないうと土蔵に閉じこもって兄の指導を受けました。時には難しい詰将棋の問題を出され解けるまで蔵から出さん」とと外から錠をかけられることもありました。日本一の将棋指しになろうと決心し、兄の本を片っ端から読みました。

お母さんに「将棋指しになりたい」というと、いつも「けん」の一言です。数えで十五、満で十三歳のとき家出をしますが、お母さんの物差しの裏に**名人に香車を引いて勝つ**と書き残しました。

広島に出た幸三は詰将棋で賞金を稼いだり、住み込みで働いたりしていましたが、やがて大阪の木見金治郎九段を訪ね住み込みで弟子入りし、苦労を重ねながら将棋の道に励みました。

兄静夫の影響は将棋だけではなくようです。小学生の時は、学校に行けば叱られることの多い子どもでしたが、作文の時間に、
むくむくと出てきた雲が天に勝つ

と書いて先生にほめられたことが自慢でした。有名になってからも、折にふれ句を詠んで色紙に書いています。

強がりや 雪に転んで 廻り見る
病むもよし 病まば見るべし 萩すすき

元旦や 昨年のままで結構 女房殿

静尾夫人も雷も坊やと碁にはえびす顔と返されています。きつと、少年時代、俳人でもあった兄静夫に手ほどきを受けたからだと思えます。

升田幸三エピソード

升田幸三名人の人氣は、**新手一生**の「升田将棋」にあったのですが、将棋を知らない私にはわかりません。ただ、三良坂中学校に勤務していたころ、幸三名人の子どもの頃のエピソードを度々聞き、名人に香車を引いて勝つ」という家出の場面を子ども会で劇にしたことがあります。少年時代は無鉄砲でブレイキの効かない自転車坂道を下って大けが。家の前を流れる馬洗川で泳ぐ魚の手掴み。学校は「ケンカ」といたずらをしに行くところ」(本人談)と悪ガキ少年だったようです。

三冠王になっても、天衣無縫の自由人で巨人の長嶋茂雄監督と対談して「三割バッターが一流なんて：プロ野球も大したことがない。将棋は八割は勝たないと飯が食えん」。映画にも剣豪役で出場。漫画のモデル「刈田升三」として登場するなど、引退後大活躍でしたが、平成三年四月五日、七十三歳で亡くなりました。



大道詰将棋荒らし役で。向かって右長門勇



名人を最後まで支えられた静尾夫人

里山学びネットワーク

蓮光寺お寺スクール

副住職 桑名哲英



作木は 森の宝石

ブッポウソウのまち

三次市作木町伊賀和志の寺の若院です。この度、縁あってあすなるの皆様と夏のイベントを企画する機会に恵まれました。本稿を読まれている方は旧三次市内の方が多いのではないかと思います。

皆様は作木町伊賀和志というところのようなイメージを持たれていますか？江の川の奥の方、山深い田舎、島根県？といったイメージではないでしょうか。

今、作木町では森の宝石ブッポウソウの保護活動に力を入れ、現在は全国で八〇〇羽のうちの半分の四〇〇羽が作木町で新しい命を育んでいます。作木町の子どもの人数よりはるかに多い数字です。

さて、あすなるは、経済的・地域的（過疎地）ハンデによって、学力格差が起ることを危惧され活動をされていると聞きます。

昨年、作木町自治連合会主催で中学校三年生を対象に学習会を開催され、我が家の長女も参加しました。そうしたおり、あすなるから過疎地の寺でみんなが協力し合いながら勉強をする会を開かないかとお誘いをうけ、冬休みを利用してお寺でこたつに足を突っ込みながらの勉強会を開きました。

こうした経過で、今回の夏のイベントに繋がることとなりました。

過疎地の寺でなにが？なにを？

作木町は安芸高田市（高宮町）・邑南町 伊羽須美村（美郷町 恒大和村）にも隣接しています。いずれの町の生活圏・商業圏は三次市ではないでしょうか？現在、廃止問題で取り上げられています。三江線はこれらの町を繋ぎながら走っています。県が違っても、驚くほど隣の町が見えませんか。こうした現状と立地条件のなかで、

・過疎地の寺で何ができるか？
・寺は公共のために何をなすべきか？

・地域の寺として、これまで活動はどうだったか？
というようにことを常々考えていました。そうして、たどり着いた視点は次のことでした。

・これから過疎地を担っていく子どもたちが、行政区を超えて知り合うことが出来ないか。
・将来、「一緒になって地域を担うために、共有する思い出がつくれぬか。

・子どもたちが、自分たちのまち以外の人と積極的に交わることが出来ないか、とても大事な機会を失することになる。

等々、こうした体験の場が、より広がりをもつて出来ることを喜んでいきます。



夏イベント お寺スクール へどうぞ！

一昨年、昨年と二回ほどですが、夏のイベントお寺スクールを開催しました。地元作木町や旧三次市内・広島市内や岐阜県からも参加がありました。親同士は知り合いでも、子ども達は初めてでも、すぐに友達です。田舎の子どもでも、最近では川や山などの自然で遊ばなくなっています。町の子なら尚更ではないでしょうか。遊びを通して自然と友達になるのに子ども達に理由は要らない気がします。むしろ今はそのきっかけが不足しています。

布野町からも声掛けをいただいております。今年ぐらいから、お隣の美郷町や邑南町または旧三次市の子ども達 保護者に接点を持てないかなと思っていた矢先に、このお話をいただき感謝します。

今回は小川遊びをメインに企画しております。ほぼ百％天候頼りなので、当日が晴れば最高です。アユの素握り体験や川の清掃、もちろん自由に川遊び。泳ぎに自信があれば江の川で豪快に泳ぐというのもありでは？ブッポウソウの観察も案内面白いですよ。森の宝石を見つけてみては？

別途案内があると思いますが、是非、作木の川で、知らない子どもや大人と一緒に楽しくしたいものです。あすなるのみなさん、応援隊のみなさんが来てくださることを楽しみにしています。



総領自治振興区教育プロジェクト



高齢者のサロンと小学生の交

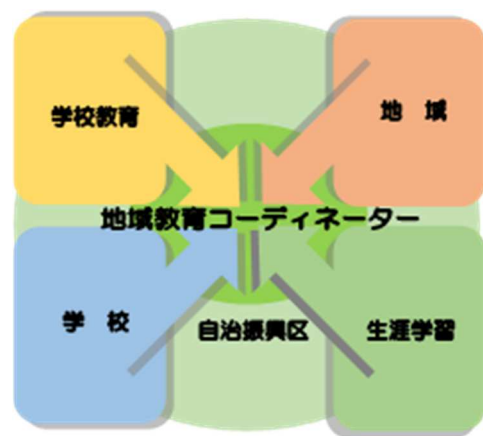
庄原市総領自治振興区では、「安心安全」をテーマとして自治振興区活動の基本的な方針である振興計画に基づき、様々なまちづくりを進めています。

主な活動としては「教育」「福祉」「定住」を柱とするプロジェクトを中心に事業を進めています。

教育プロジェクトは振興計画のアクションプランとなる実施計画を策定し、左図のとおり庄原市の各計画との整合を図りながら、地域ぐるみで子育ての応援を進めています。

この事業の目的は、子供の多様な居場所の確保や多様な学習環境の整備を通して、主体的で健全な子供の育成を進めることで、保護者の就労環境の充実や子育て環境の充実を目指すものです。

教育プロジェクトの具体的な事業としては、小学生を対象とした放課後子ども教室・そろばん教室、中学生を対象とした放課後塾（英語・数学）



英検教室をはじめ、地域の様々な活動との連携による交流事業などを進めています。

特徴的な事業の一つに自治振興区に「地域教育コーディネーター」を配置して、様々な団体や活動の連携を進めていることがあります。

学校教育での地域学習やクラブ活動の教材や講師を地域の資源や人材と結び付けていくことで、密接な連携を図っています。

総領自治振興区では、この地域コーディネーターにより、教育の大きな課題でもある学校教育と生涯学習の距離を縮め、双方にメリットのある連携を模索しています。

例えば、下の写真のように生涯学習で習得した技術を子供たちにクラブ活動で教えることで、技術の向上や生きがいにつながっていくような効果を目指しています。



総領地域のような縮小を続ける中山間地域の社会では、こうした連携が活動の効率化と効果性を高め、これからの地域活動を支えることになりま

中学1年数学クラス



連携「こそが縮小を続ける社会への対応策として効果を発揮しています。

このプロジェクトのもうひとつの特色ある事業が中学生を対象とした英語と数学の基礎学力の定着を目指す「放課後塾」です。これまで、総領地域の中学生は庄原や三次の塾に通っていましたが送迎や学費の負担が大きく、限られた子供しか通塾することはできませんでした。子供たちの置かれた環境により、その環境を活用した学習のあり方を工夫していくことも大切ですが、多様な環境を提供していくことも重要だと考え、この事業を進めています。

中山間地域の環境を考える上でも、学校教育と生涯学習の連携と同様に地域間での連携もとても重要な要素となります。この度、NPO法人みよし子育て学び支援あすなろ」から連携のお話をいただき感謝しております。

取り分け地域特性を共有する中山間地域が幅広く広域的な連携をすることには、地域課題の解決に向けた多くのヒントや糸口があります。

ます。こうした連携を大きく広げ、まちづくりのあり方も含めてお互いの密接な関係の構築を進めてまいりたいと考えております。



小学校活け花クラブ

日本一の三次鵜飼をめざして

鵜匠 上岡 良介

○代々の鵜匠さんの家に生まれたのですね。

―明治から数えて私で五代目です。上岡淀吉―勇三郎―義則―良登―良介の順です。



○鵜匠の道を歩むようになったきっかけは？

―小学生のころ じいちゃん、ばく、鵜匠にならんといいけん」と訊ねたとき、祖父は「ならんほうがええ」とつぶやいたことがありました。祖父は鵜匠という仕事に誇りをもっていました。私に生活面でつらい思いをさせたくなかったのでしょう。

しかし、二十三歳の時、親父（良登鵜匠）から言われてカジコをやりました。カジコというのは鵜舟の船頭ですが、鵜匠と一心同体にならないと出来ない仕事です。毎日のように叱られました。

○やめようと思ったことはなかったのですか―

―それは一度もありませんでした。やる」と決め

た以上は、辛抱して鵜匠になろうと心で決めていましたから。九年間、カジコでしたが、最後の二年は鵜匠見習いで、親父がカジコをして私に鵜をつかわせてくれました。三次鵜飼は父子相伝が伝統です。

○正式に鵜匠デビューしたのはいつですか。

―三十二歳です。今年で鵜匠歴七年になります。

○今年は鵜の大量死ということもあり大変ですね。

―すごいショックです。責任をものすごく感じました。鵜匠としてきちんと鵜にかかわる態勢が必要です。そうしないと、またこうした事態がおこるのではないのでしょうか。これまで辛抱してやっと鵜匠になれたのですから、鵜飼の伝統技術を継承し、市民のみなさまに愛される三次鵜飼として発展させ、次の世代に誇りをもって渡したいと思っています。

白い鵜 白輝しろき」は元気です！

鵜匠 角濱 義郎

○白輝くんは元気ですか。

―冬のある時期、帰りが遅くなりエサをやる時間が遅くなったために鵜が暴れ、一時は出血がひどく夜も眠れないほど心配で、獣医の先生にも相談し世話をしているうちに元気になりました。白い鵜は元気です」ということを、お知らせしたいと思います。

○若い鵜匠さんですね。どういうきっかけで、おじ

いさん（六郎鵜匠）の跡継ぎになられたのですか。

―父は会社に勤めていて鵜匠との兼業が出来なかったので、祖父が中学二年生だった私に「やってみないか」と声をかけたのがきっかけです。角濱の鵜匠を、明治から数えれば、源次郎―良八―八郎ですから、私は四代目になります。父や祖父の兄弟も何人か鵜匠になっています。



○これからの意気込みについて話してください。

―養護老人ホーム慈照園の勤務を終えて、夕方、鵜小屋に行つて掃除をして、鵜の体調をみたり、食事を与えるのですが、仕事の都合で遅くなったりすると、空腹のため鵜がイラついています。カジコと鵜匠が一体となつて鵜飼をするように、鵜と鵜匠は一心同体なのです。鵜がイラつくと、私もまたイラついてストレスがたまります。何度もうこうした悩みを繰り返してきました。時には「鵜匠をやめようか」と思うこともありましたが、祖父や先輩鵜匠に教えてもらった大切な技です。やめることはできません。自分に言い聞かせながら今日までやってきました。

現在、私は中国から来て生き残っている、最後の白い鵜「白輝」を飼っています。長生きをさせたいの一心です。みなさんも「白輝は元気であるか」と会うたびに声をかけてください。願いは一つ、しっかりと鵜と心を通い合わせられる状況をつくり出したい」ということです。

ご献金・ご協力ありがとうございました

ご寄付・ご協力をいただいた企業等

平成二十八年 一月一日～五月二十六日現在

三次市社会福祉協議会・広島県共同募金会

ミヨシ電子株式会社(三次市東酒屋町)

(株)三次衛生工業社(三次市四拾貫町)

まきの薬品 毎月(三次市十日市東)

江の川漁業協同組合(三次市三次町)

シンセイアート(株) 三次営業所

鵜匠会(三次市向江田町)

三次鵜飼船頭技術保存会 同

あすなる応援隊 R&Mコントリビューション

ご寄付をいただいた市民のみなさま

弓戸 清子(福山市東手城町)

木倉 敬之(東京都久留米市大門町)

関家 水濱(奈良市藤の木台)

前川 泰久(三次市東酒屋町)

三橋 豊(庄原市高茂町)

山口代三子(三次市十日市中)

小根森直子(三次市十日市東)

桑田銃十郎(三次市四拾貫町)

笹田 富子(福山市水呑町)

竹折 豊子(三次市三良坂町)

四車ユキユ(三次市南畑敷町)

当天 賢二(三次市栗屋町)

岡下 君雄(三次市島敷町)

前田 紀昭(三次市塩町)

半田 孝江(三次市三良坂町)

山口 則子(三次市向江田町)

黒田 明憲(三次市島敷町)

匿名 正幸(三次市十日市南)

坂井 正幸(三次市大田幸町)

梅田 峯雄(三次市十日市東)

伊達 典子(三次市四十貫町)

吉川 昌彦(三次市西酒屋町)

見土 和則(三次市十日市東)

匿名 三歳(三次市)

瀬戸 三歳(三次市三良坂町)

高田 至子(三次市三良坂町)

高本 友枝(三次市三良坂町)

匿名 友枝(三次市三良坂町)

廣川 幹二(三次市高杉町)

麓 知子(三次市十日市東)

黒瀬 洋(三次市廻神町)

橋本 洋資(三次市作木町)

谷口 浩子(三次市東酒屋町)

匿名 浩子(三次市高杉町)

近藤 哲司(三次市四十貫町)

中村 公子(三次市十日市中)

山田 公主(三次市島敷町)

竹原 孝剛(三次市南畑敷町)

和田 光信(三次市吉舎町)

鷺尾 定子(三次市南畑敷町)

桑名 哲英(三次市作木町)

瀬川 順子(三次市三良坂町)

実近 和子(三次市後山町)

街頭募金(あすなる応援隊)

あらがうていきました！

お詫び 前田紀昭様の住所が二十

七号で間違って栗屋町となっていました。正しくは塩町です。今号で訂正しお詫び申し上げます。

砦

*今号も原稿をいっぱいいただき八ページ編集。砦」のスペース確保するため、やむなく原稿の一部をカット。お許しください。

*新生あすなるがスタートして二か月。新一年生は初めての中間試験で勉強の厳しさを経験。中学部の先生方は日曜日も特別指導。少しでも得点を上げ、生徒に自信を持たせたい一念からです。

*ありがたい話をもう一つ。休日の昼前、ひよっこりA先生が事務室に。ぞうされたのですか」生徒の試合を見に行っていたんです。できるだけ目立たないように気を付けたんですが

よみがえりました。若いころ担任した生徒で、なかなか馴染めないうため、話題のきっかけを掴みたくて試合を観に行ったことを。感謝！

*毎年、広島の花壇に植えたり、夏の馬洗川イベントに協力されていた三次鵜飼の鵜匠さんたち、鵜の大量死」でピンチ。お返しが出来れば：やっぱ鵜飼の遊覧船に乗ることが一番かな？

*どんな地域で育っても、どんな家庭で生まれても、学びは平等。義務教育は機会均等！今、学校」という学びの場はあっても、学びが実感できない子どもたちが増えています。今年はお寺」過疎地」連携を試みています。今号に担当者から原稿をいただきました。読んでください。フリー教室」は

来られるときに「学びたい教科をー学べる時間だけ！初めての試みです。今の中学生、クラブ 習いごと 塾と大変に忙しいのが現実。習いさえすればいいというものではないが、保護者の子育て観もあります。一緒に考えていきたいものです。文責 くらだあきのり

NPO法人あすなる会員・賛助会員募集

会 員

・スタッフとしてボランティアで活動していただける方。年会費 1口(10,000円)以上

個人 年賛助会費 1口(5,000円)以上

企業等 年賛助会費 1口(10,000円)以上

特 典

・あすなる通信送付(年4～5回発行) ・あすなる行事へ招待(卒塾式・講演会・イベント)